

日本旧石器学会 ニュースレター 第27号 NEWS LETTER No.27

JAPANESE PALAEOLOGICAL RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第12回大会の開催（報告）

2014年度日本旧石器学会第12回大会が、2014年6月21～22日、東京都小平市のルネこだいら小平市民文化会館を会場として開催された。今回の大会は、武蔵野台地の旧石器遺跡として学史上著名な鈴木遺跡が所在する小平市内のホールを会場とした。そこで、大会は日本旧石器学会と小平市教育委員会との共催として開催される次第となった。

大会に先立ち21日10時30分から、小平市教育委員会主催で岡山大学名誉教授（日本旧石器学会元会長）稲田孝司氏による「鈴木遺跡の成り立ちと黒曜石の獲得」という演題の公開講演が開催された。

総会 中ホールを会場として、6月21日の13時から日本旧石器学会総会が行われた。冒頭、今回の総会をもって任期満了の退任となる小野昭会長からの挨拶があった。その後、事務局より57通の委任状があり、当日出席者は40名であること、その合計が会員数の5分の1以上に達することから、総会は成立することが報告された。そして、事務局推薦により亀田直美会員が議長に選出された。

議事は、各委員会より2013年度活動報告と2014年度活動計画の報告が行われ、採決により承認を得た。次に2013年度の日本旧石器学会賞の受賞者が発表された。学会賞は堤隆氏、奨励賞は中沢祐一氏に贈られた。授賞式では、小野会長から当日出席されていた堤隆氏には賞状の贈呈がなされた。その他の報告・審議事項として、2013年度選挙結果の報告が行われ、新たに選出された6期役員が登壇し、それぞれ自己紹介がなされた。小野会長からバトンタッチされた佐藤宏之新会長からは、抱負として、日本の旧石器研究の国際化にむけ、より一層の取り組みをおこなっていきたい旨が述べられた。学会報告・審議事項は本ニュースレター2～7頁に掲載している。

基調講演 一般研究発表に先立って14時20分からは、佐藤宏之氏により「北海道の後期旧石器時代における黒曜石産地の開発と黒曜石の流通」と題して、シンポジウム『石材の獲得・消費と遺跡群の形成』の基調講

演が行われた。

一般研究発表 15時50分からは一般研究発表が行われた。発表者は小川望氏、中村由克氏、及川穰・宮坂清・隅田祥光・池谷信之・橋詰潤・堀恭介氏、佐野勝宏氏である。

シンポジウム シンポジウム『石材の獲得・消費と遺跡群の形成』は、6月21・22日の両日にわたって実施された。21日には、研究企画委員会の芝康次郎委員より趣旨説明がなされた。今回のシンポジウムは、近年、日本の旧石器研究で急速な進展をみている石材の獲得・消費と遺跡・遺跡群の形成をリンクさせる研究の到達点と課題を議論するため、北海道、東北、関東・中部、近畿、九州という各地域での事例研究の報告を中心にシンポジウムを進めていくことが説明された。また、日本国内の研究状況との比較のため、韓国における研究状況についても報告をいただくことが述べられた。

22日は、9時30分から計5本の基調報告が行われた。発表者は、鈴木宏行氏、鹿又喜隆氏、国武貞克氏、絹川一徳氏、杉原敏之氏である。誌上報告された大谷薫氏の報告内容に関しては、コメンテーターの張龍俊氏より内容紹介とそれに対するコメントが述べられた。

基調報告の後に、研究企画委員会の芝康次郎委員・高倉純委員を司会としたパネル・ディスカッションが行われた。まず各発表者から補足説明があったのち、石材の獲得、石材の消費にテーマを分けてパネル・ディスカッションを進めていった。石材の獲得にかかわ



写真1 2013年度日本旧石器学会賞授賞式

っては、各地域での原産地遺跡群の盛衰、原産地遺跡群内での石器製作活動の実態、搬出された石材・石器に関して、パネラーが説明を行った。各原産地利用の時期的変化の把握には、自然環境とのかかわりで遺跡の形成と保存の問題にも注意を払っていくべきことが指摘された。会場からは、基調報告では取り上げられなかった黒曜石やサヌカイト、あるいは他の石材の原産地遺跡群の実態について、及川穰氏や中村由克氏、杉山浩平氏、沖憲明氏からコメントがなされた。次の石材の消費に関しては、原産地と消費地とを取り結ぶ解釈の問題も含め、パネラーから各地域での研究の現状について説明がなされた。会場からは、石材消費にかかわり、とくに他集団への石器の分配の問題について須藤隆司氏からコメントがなされた。最後に、石材の獲得と消費にかかわる研究にそれぞれ取り組まれてきた木村英明氏、稲田孝司氏、佐藤宏之氏、小野昭氏から、シンポジウムの講評となるコメントがなされた。そこでは、原産地利用に関して地域単位だけでなく地域を横断した共通の動向を探っていくことの必要性、また採掘行動の出現と他集団への分配の関連性あるいは石材獲得・消費の動向の変化と環境変動との年代的な齟齬の問題にも注意をはらっていくべきこと、また地質学との共同研究の進め方など、多岐にわたる指摘がなされた。

ポスターセッション 展示室を会場として22日にはポスターセッションがおこなわれた。ポスターセッションのコアタイムは13時から13時50分までであった。今回は計6本の発表があった。報告者は、杉原保幸・高橋康氏、山崎真治・藤田祐樹・片桐千亜紀・海部陽介・黒住耐二氏、橋詰潤・島田和高・堀恭介・小野昭氏、杉山浩平・土井翔平・池谷信之・諏訪間順・諏訪間伸・小野寺洋介・渡邊穰・瀬尾晶太・前嶋秀張・木村聡・柴田亮平・関口昌和・亀井宏行氏・伊豆市教育委員会、岩瀬彬氏、役重みゆき・高屋敷飛鳥氏である。

(記録：ニュースレター委員会高倉記)



写真2 ポスターセッション会場風景

2013 年度委員会報告

総務委員会 2013 年度の総務委員会の活動は以下の通りである。

- (1) 会員情報の管理
 - (2) 2013 年度総会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整(総会：2013 年 6 月 15 日(土) 東海大学湘南キャンパス 11 号館 11-206 教室)
 - (3) 役員会に関する資料の作成・会場設営・連絡調整(役員会：2013 年 5 月 25 日(土) 駒澤大学駒沢キャンパス 1 号館 5 階 513 号教室)
 - (4) 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整
 - (5) 会誌(「旧石器研究」第9号)、ニュースレター(第24・25・26号)、各種学会連絡文書の発送
 - ・会誌発送：2013 年 7 月 4 日(木)
 - それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。
 - (6) 日本考古学協会図書交換会等におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布
 - ・日本考古学協会図書交換会：2013 年 5 月 26 日(日)
 - (7) 新入会員の入会・住所変更等に関する事務
 - ・2013 年度の新入会員は4名、退会者は4名であり、2014 年 4 月 1 日現在の会員数は、236 名である。
 - (8) 2014 年度総会会場に係る小平市教育委員会との調整(研究企画委員会連携)
 - (9) 研究グループ支援制度に関する事務
 - ・「沖縄更新世人類研究グループ」(研究代表者 山崎真治氏)の第3年度の支援
 - ・「南アジアの旧石器時代遺跡研究グループ」(研究代表者 野口淳氏)の第2年度の支援
 - (10) 日本旧石器学会賞に関すること
 - ・2013 年度総会において日本旧石器学会賞規定を制定し、それに基づき日本旧石器学会選考委員会を開催し、その事務を行った。
- 工程 8 月：ニュースレター第24号で「学会賞推薦」の募集(9 月 15 日～11 月 15 日)、12 月：ニュースレター第25号で「学会賞推薦」の再募集(1 月 15 日～2 月 28 日)9 通の推薦、4 月 19 日：選考委員会開催
- (11) 会員メーリングリストに関すること
 - ・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストの導入を実施した。会員の登録を待って、12 月 18 日に運用を開始した。現在の登録人数は66名である。
 - (12) 役員選挙に関すること

・役員選挙について以下の工程で実施した。

工程 12月：ニュースレター第25号で告示、12月27日～2月1日：立候補等の受付、2月14日：投票用紙の送付、3月1日～3月20日：投票、3月29日：開票、5月：ニュースレター第26号で結果報告

会計委員会 2013年度の会計委員会の活動は、以下の通りである。

[総会・役員会時] 会議費、旅費交通費等の各種支払。研究グループ運営経費、学会シンボルマーク賞金の支出。各委員会の立替金の清算。会費の徴収。学会刊行物の頒布（総務委員会と協同）。現金収入（会費・刊行物頒布収入）の学会口座への預入。

[通 年] 会費収入および刊行物頒布収入の管理。会員ごとの会費納入状況の管理。会費納入・住所変更等諸連絡の総務委員会への報告。学会口座出納の管理。会誌第9号、シンポジウム予稿集、ニュースレター（第23・24・25号）の印刷費の支払。HP管理＋メーリングリスト構築運用の委託費の支払。次回APA日本大会経費の積立。

・2013年度決算（資料1参照）

[会費収入] 2013年度内の会費の納入状況は、のべ222件（／会員数238人）である。

[その他の収入（刊行物頒布収入）] 刊行物は、日本考古学協会・日本旧石器学会総会時の頒布や委託販売により、予算額を上回る収入がある。

[支 出] 各費目とも、会議費・会場設営費以外は概ね予算額の範囲内で執行できている。

[特別会計報告] 前年度に続き次回APA（アジア旧石器協会）日本大会の経費を積立てている。（資料2参照）

[会計監査] 2014年6月1日に、熊本県錦町において、会計監査委員より会計監査を受け、会計が適正に執行されている旨の報告を受けた。（別紙資料省略）

会誌委員会 2013年度における会誌委員会の目標は、会誌が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努めるものとし、（1）学術的水準の高い論考が並ぶ、より「面白い」誌面になるよう積極的に活動を行う、（2）日本考古学協会図書交換会に刊行を間に合わせる、（3）関連分野の投稿数を増やすべく具体的な検討を開始する、というものであった。（1）については、研究企画委員会の協力も得て、昨年度と同様に多彩な内容の論文や研究ノートに掲載することができた。（2）の会誌編集は、会誌委員間で適宜連絡と調整に努め、相互に連携を取りつつ2～4月に集中して作業を進めた。編集工程はかなり窮屈ではあったが、第10号の刊行を日本考古学協会図書交換会に間に

合わせることができた。（3）については、研究企画委員会の協力もあって、＜総説＞を2本掲載することができた。

・会誌『旧石器研究』第10号（2014年5月刊行）

第10号は、総説2、原著論文6、研究ノート1、シンポジウム報告1、書評1、会則・規定・会員名簿等からなる。総頁数は178頁である。（目次省略）

・2013年度活動の課題

2013年度の会誌編集作業において、次のような問題があった。

まず、本会誌への論文等の投稿締切りについてである。十分な査読とその結果にもとづくリライトの時間を確保し、会誌の5月刊行を目指すためには、少なくとも11月末までの投稿原稿の集約が必要である。直近号への会誌掲載を希望する会員には、この期日までに投稿していただくようお願いしているが、昨年度と同様、年明け1月以降になって原稿が到着するケースが多く、会誌内容とボリューム、刊行の見通しがつくのが3月下旬から4月になってからというのが実情であった。そのため、編集作業の工程が非常に厳しくなり、結果、査読者や会誌委員に過大な負担をお願いした。この問題は常態化しつつあり、根本的な改善にはつながっていない。質の高い会誌内容と安定した会誌刊行を行うためには、責任ある会誌編集体制の維持が必要であり、今後さらなる検討を要する。また、会誌内容を充実させるためには、刊行する前年度の早い時期に一定数の論文の投稿予告を把握しておく必要がある。そのため、会員の自発的で積極的な投稿を促すだけではなく、研究企画委員会との連携に努め、会誌が多様な内容構成となるように事前の調整に努めることも重要である。

ニュースレター委員会 ニュースレター第24号、第25号、第26号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

・第24号 2013年8月発行

日本旧石器学会第11回大会の開催（報告）、2012年度委員会報告、2013年度活動計画、日本旧石器学会賞について、会則の一部変更について、学会シンボルマーク決定、2013年度役員会、日本旧石器学会普及講演会及び共催シンポジウムのお知らせ、第6回アジア旧石器協会中国大会（報告）。

・第25号 2013年12月発行

人類の進化と病－AgingとLongevityという視点から－、シンポジウム「日本列島における細石刃石器群の起源」の開催報告、岩宿フォーラム2013／シンポジウム「槍先形尖頭器文化の大規模遺跡と遺跡の広がり」開催報

資料 1 日本旧石器学会 2013 年度決算(単位:円)

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,205,000	1,110,000	-95,000	06年度1名、07年度1名、08年度1名、09年度3名、10年度3名、11年度7名、12年度26名、13年度171名、14年度7名、15年度2名(合計222件)
2 その他の収入				
会誌頒布代金	300,000	329,600	29,600	会誌9号62部、バックナンバー31部
シンポジウム予稿集頒布代金	156,000	215,700	59,700	予稿集11号125部、バックナンバー44部
その他収入	0	100,880	100,880	東海大学からの補助金、予稿集送料
前期繰越収支差額	1,910,576	1,910,576	0	
小計①	3,571,576	3,666,756	95,180	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	50,000	162,300	112,300	総会シンポジウム等会場費、考古学協会図書交換会卓代、他
旅費交通費	100,000	52,000	-48,000	総会シンポジウム発表者交通費補助、他
通信運搬費	270,000	225,925	-44,075	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、他
消耗品費	30,000	22,569	-7,431	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,150,000	1,050,390	-99,610	会誌、予稿集、ニュースレター3件
諸謝金	60,000	0	-60,000	
委託費	63,000	63,000	0	HP管理・メーリングリスト構築運用委託
次回APA日本大会経費積立	200,000	200,000	0	
研究グループ運営経費	60,000	60,000	0	2件(沖縄更新人類研究グループ、南アジアの旧石器時代遺跡研究グループ)
シンポジウム開催準備費	0	0	0	
学会シンボルマーク賞金	30,000	30,000	0	
雑費	25,000	18,550	-6,450	郵便振替、銀行振込手数料、他
予備費	1,533,576	0	-1,533,576	
小計②	3,571,576	1,884,734	-1,686,842	
次期繰越金小計①-小計②	0	1,782,022	1,782,022	

資料 2 日本旧石器学会 2013 年度特別会計報告(次回 APA 日本大会経費積立)(単位:円)

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
1 積立金収入				
積立金収入	200,000	200,000	0	2013年度 次回APA日本大会経費積立金
2 その他の収入				
	0	0	0	
前期繰越収支差額	200,000	200,000	0	
小計①	400,000	400,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
次回APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
小計②	0	0	0	
次期繰越金小計①-小計②	400,000	400,000	0	

告、国際第四紀学連合第 19 回大会のご案内、2013 年度委員会中間報告、学会賞の推薦について(再募集)、役員選挙について(選挙告示)。

・第 26 号 2014 年 5 月

Paleoamerican Odyssey 参加記(報告)、役員選挙結果のお知らせ、日本旧石器学会研究グループ 2013 年度活動報告、2014 年度総会・基調講演・一般研究発表・シンポジウム開催要項・プログラムのご案内、関連学会情報。

渉外委員会 2013 年度には以下の活動を行った。

・6 月 26 日～30 日に開催された APA 中国・銀川大会への準備、連絡

小野昭、佐藤宏之、阿子島香、加藤真二、出穂雅実、海部陽介、佐川正敏、島田和高、大谷薫(韓国)の各会員が参加。このほか、熊井久雄氏も参加。詳細は、ニュースレター第 24 号掲載の阿子島報文を参照。

・APA 中国・銀川大会中に開かれた APA 執行委員会

APA 韓国大会について。11 月にソウル大で開催(その後、公州に変更)。詳細を決定次第、各国へ通知する。

APA 大会を毎年開催から隔年開催へ変更。日本大会から適用するので、日本大会は 2016 年開催。

・2014 年に開催される APA 韓国・公州大会に関する連絡調整

ファースト・サーキュレーションの催促、翻訳。

研究企画委員 2013年度は、6月15日（土）～16日（日）に東海大学湘南キャンパスにおいて、日本旧石器学会第11回大会を開催した。その実施ならびに2014年度に東京都小平市で実施される予定の第12回大会にむけた準備を行った。

データベース委員会 2013年度は以下の活動を行った。
①データベース加筆・修正箇所を纏めた。②オンライン（学会HP）での公開にむけた計画・準備を進めた。
③データベース入力協力者の選定。

入会資格審査委員会 2013年度は、小川望氏、西村昌也氏、小池聡氏、小原俊行氏、夏木大吾氏、堀恭介氏の6名の入会資格審査がなされ、全ての方が会員として承認された。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR、教科書問題への取り組み、HPの更新、関連学会情報の提供や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行った。

（1）普及講座を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PRに努めた。

2013年9月15日 長野県浅間縄文ミュージアムで開催（小野昭会長講演「石器の接合―さまざまな発見―」）

（2）HPでは、単に情報提供だけでなく、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加した。

（3）教科書問題の対応として、HPに子供向けの旧石器時代解説コンテンツ「旧石器時代の教科書」のコンテンツを追加した。

（4）10周年記念として学会シンボルマーク制定。

最優秀賞 イラストレータ山浦基恵子様（長野県小諸市在住）に決定

（5）その他 共催事業

・フォーラム「神子柴遺跡とは何か」2013年7月7日、場所：長野県伊那市創造館、主催：伊那市創造館・上伊那考古学会、共催：明治大学黒耀石研究センター

・シンポジウム「日本列島における細石刃石器群の起源をめぐって」2013年9月15・16日、場所：長野県浅間縄文ミュージアム、主催：八ヶ岳旧石器研究グループ

2014年度活動計画

総務委員会 経常的な会務に加え、以下の諸課題に取り組む。

（1）日本旧石器学会賞に関すること

日本旧石器学会賞規定に定める「会長が選ぶ会員」

は、島田和高会員とする。

工程 8月：ニュースレター第27号で「学会賞推薦」の告知、4月頃：学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定、5月：日本考古学協会総会時の役員会で、決定、6月：日本旧石器学会総会にて授賞式
（2）研究グループ支援

「南アジアの旧石器時代遺跡研究グループ」（研究代表者 野口淳氏）第3年度の支援及び運営費の交付を実施する。「沖縄更新世人類研究グループ」（研究代表者 山崎真治氏）の第4年度の支援を実施する。

（3）その他

引き続き、メーリングリスト活用の強化に取り組む。
2015年度総会・大会の会場について準備を進める。なお、第13回総会・大会は2015年6月20・21日、東北大学片平キャンパス片平さくらホールで開催する予定である。

会計委員会 基本的には前年度と同様の会計管理・運営を行うが、各委員会との連携を強化し、積極的な新入会員の勧誘や会費未納者への納入督促、刊行物頒布機会の開拓等の活動にも取り組んでいきたい。

・2014年度予算（資料3参照）

[収入] 会費収入は、前年度と同様、現在の会員数に年会費をかけて計上している。刊行物頒布収入は、近年の頒布実績をもとに前年度と同額で計上している。

[支出] 各費目は、基本的に前年度の実績を参考に今年度の必要経費を加えて所要額を計上している。また、消費税増税にともなう支出金額の増大についても考慮して計上している。会議費・会場設営費、シンポジウム開催準備費は、今年度－次年度の事業計画により増額している。旅費交通費、通信運搬費は前年度実績より減額し、消耗品費、印刷製本費は同額に据置いている。諸謝金、研究グループ運営経費は、今年度の事業に合わせて減額している。委託費は、わずかに増額となっているが、これは消費税増税のためである。次回APA日本大会経費積立は、2年後に迫った日本開催に向け前年度と同額を積立予定である。新たな費目として、日本旧石器学会賞関連経費について計上している。

会誌委員会 昨年度と同様、引き続き以下の目標を定め、会誌第11号が充実した内容となるよう責任ある編集体制の確保に努める。（1）学術的水準の高い論考が並ぶ、より「面白い」誌面になるよう積極的に活動を行う。（2）日本考古学協会図書交換会に刊行を間に合わせる。（3）関連分野の投稿数を増やすべく具体的な検討を開始する。

ニュースレター委員会 ニュースレター第27号、第28

資料3 日本旧石器学会 2014 年度予算(単位:円)

収 入				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会費収入				
会費収入	1,215,000	1,205,000	10,000	会員243名×5,000円
2 その他の収入				
会誌頒布代金	300,000	300,000	0	50部×4,000円=200,000円、バックナンバー及び委託販売分100,000円
シンポジウム予稿集頒布代金	156,000	156,000	0	会員30部×1,200円=36,000円、一般40部×1,500円=60,000円、バックナンバー及び委託販売分60,000円
前期繰越収支差額	1,782,022	1,910,576	-128,554	
小計①	3,453,022	3,571,576	-118,554	
支 出				
費 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	80,000	50,000	30,000	総会シンポジウム・役員会等会議費・会場設営費、他
旅費交通費	90,000	100,000	-10,000	総会シンポジウム発表者交通費補助、国際会議旅費補助、他
通信運搬費	250,000	270,000	-20,000	会誌・ニュースレター送料、諸通知、役員間連絡、校正連絡、他
消耗品費	30,000	30,000	0	事務用品、コピー、他
印刷製本費	1,150,000	1,150,000	0	会誌、シンポジウム予稿集、ニュースレター3通、パンフレット、他
諸謝金	50,000	60,000	-10,000	総会シンポジウム基調講演講師謝金、公開講座講師謝金、他
委託費	64,800	63,000	1,800	HP管理・メーリングリスト構築運用委託
次回APA日本大会経費積立	200,000	200,000	0	
研究グループ運営経費	30,000	60,000	-30,000	1件(南アジアの旧石器時代遺跡研究グループ)
シンポジウム開催準備費	30,000	0	30,000	実行組織会議費、事前検討会経費、他
学会シンボルマーク賞金	0	30,000	-30,000	
日本旧石器学会賞関連経費	90,000	0	90,000	賞状、副賞、他
雑費	25,000	25,000	0	郵便振替、銀行振込手数料、他
予備費	1,363,222	1,533,576	-170,354	予備費、他
小計②	3,453,022	3,571,576	-118,554	
小計①ー小計②	0	0	0	

号、第29号の編集・発行を主に以下の内容で行う。

・第27号 2014年8月

2014年度日本旧石器学会大会の開催(報告)、2013年度委員会報告、2014年度活動計画、2013年度日本旧石器学会賞受賞者報告、日本旧石器学会賞推薦受付の告知、2014年度日本旧石器学会役員会。

・第28号 2014年12月

第7回アジア旧石器協会韓国大会(報告)、委員会活動中間報告、2013年度日本旧石器学会賞選考理由及び受賞者の言葉。

・第29号 2015年4月

2015年度日本旧石器学会総会・研究発表・シンポジウム開催要項のご案内、研究グループ2014年度活動報告。

渉外委員会 2014年度の活動計画は以下のとおり。

・APA 韓国・公州大会への連絡調整

日程: 11月12日～11月16日、開催地: 公州、テーマ: 石荘里旧石器遺跡発見50周年記念「東アジアの旧石器における諸変異性: 共通性と相違」、参加予定者: 小野昭、佐藤宏之、阿子島香、長井謙治、野口淳、飯田茂雄、安蒜政雄、加藤真二、海部陽介、高倉純、中沢祐一、清水宗昭、絹川一徳、出穂雅実

・APA 韓国大会への連絡調整 セカンド・サーキュレーション大会事務局受付終了(6月1日締め切り)

・APA 日本大会開催にむけて、準備のための手順検討

と、具体案の叩き台作成

研究企画委員会 2014年度は、6月21日(土)・22日(日)にルネこだいら小平市民文化会館において、基調講演、一般研究発表、シンポジウム、ポスターセッションを開催する。2015年度は6月20・21日の日程で、東北大学にて開催の予定である。

データベース委員会 2014年度の活動計画は以下のとおり。

(1) データベース入力協力者の依頼(追加遺跡数が少ない都道府県では、地方ブロックで担当者を集約)。データベース第二版の編集については、2016年APA後に本格的な作業に入る。

(2) 2011年データベース加筆・修正。

(3) オンライン(学会HP)での公開。データベースのオンライン化の点では、2011年に刊行されたものに誤記修正を加え、学会ホームページ上にアップすることが実行可能なところである。目標としては、2014年度中に、公開できるようにしたい。

以下の通り、DBのオンライン化などを進めたい。

・2011年に刊行されたデータ(表 csv, 地図 jpg, 本文 pdf)に修正を加えたものをアップする。フリーアクセスの予定。会員限定などにはしない。(いずれにせよ、2011年刊行の書籍が在庫なしのため、利用促進のためにも早めにアップしたい。)

・一般向けに、Web 検索・Google マップに旗を立てさせて分布図とする等の加工は、第二段階の作業とする。

・第二版に向けたデータ集約と管理については、幾つかの意見がある。特定の会員あるいは委員のみが動的データベースにより日々情報更新する案もあるが、誤記入力の問題（例えば、元々の報告書のデータに誤りがあり、それを DB 委員会が訂正したが、再度、それに訂正が加えられる…）と管理体制の問題（入力情報の正誤を DB 委員会で全て把握できるか等）があるため、2015 年度末までに方針を固めたい。現状では、前回のようにリストのフォーマットを担当者に配布し、2015 年度末を目途に入力してもらいやり方が無難と考えている。

入会資格審査委員会 昨年度より多方面からの入会者があった。今後もより広い領域からの参加を求めている。

広報委員会 日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR、教科書問題、HP の更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

（１）普及講座を開催し、日本旧石器学会や旧石器時代の周知・PR に努める。

（２）HP では、単に情報提供だけでなく、旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。

（３）教科書問題の対応として、HP に子供向けの旧石器時代解説コンテンツ「旧石器時代の教科書」を充実させる。

（４）HP のあらたなコンテンツ追加を検討する。

（５）その他、旧石器時代関連の周知に関する共催事業を実施する。

2013 年度日本旧石器学会賞受賞者報告

2014 年 4 月 19 日に日本旧石器学会賞選考委員会を開催し、学会賞候補者 1 名、奨励賞候補者 1 名を選考しました。それを受け、5 月 17 日に役員会においてそれを了承、決定し、6 月 21 日に総会において授賞式を行いました。2013 年度、第 1 回の受賞者は以下のとおりです。

2013 年度学会賞受賞者：堤隆氏（浅間縄文ミュージアム）

2013 年度奨励賞受賞者：中沢祐一氏（北海道大学）

なお、「選考理由」及び「受賞者の言葉」は、ニュースレター第 28 号にて報告します。

2014 年度学会賞の推薦

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2014 年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

１．推薦内容 学会賞受賞候補

２．推薦期間 2014 年 9 月 15 日（月）～2014 年 11 月 30 日（日）（必着）

３．推薦者の資格 日本旧石器学会員

４．推薦方法

・学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。

５．注意事項

・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。

・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限りです。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。

・推薦の書式は自由です。

・推薦理由は概ね 100 字から 300 字にまとめてください。

６．応募先・照会先

日本旧石器学会事務局（担当：伊藤健・山岡拓也）

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836 静岡大学人文社会科学部社会学科山岡拓也研究室

電子メール jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

「日本旧石器学会研究グループ内規」 の一部改正について

「日本旧石器学会研究グループ内規」の一部を改正しました。__ の箇所を加えました。

日本旧石器学会研究グループ内規

１．日本旧石器学会（以下、本学会とする。）は、会則第 3 条にもとづき、会員相互の交流と研究活動の推進に資するべく、研究グループを置くことができる。

２．研究グループは、本学会の会員から構成されるものとし、旧石器考古学およびこれに関連する研究課題について、国内・国外の情報を交換し研究を推進することを目的とする。

３．本学会は、財政的に可能な範囲内で、研究グループの目的を推進するために、研究グループの運営費を 3 カ年を限度として交付することができる。

４．第 3 条に規定する運営費の配分額は、年度ごとに別途算定し、年度予算の総会承認を得て交付する。

５．研究グループは、3 名以上の会員からの申し出にもとづいて、総務委員会から役員会に提案され、役員会の承認を得

て設置される。

6. 研究グループの発足を希望する会員は、グループ名、代表者名、連絡先、研究目的、活動予定期間、参加者数、運営費交付希望の有無などを文書で本学会事務局に申し出なければならない。

7. 研究グループが運営費の交付を受けて活動する期間は当面3カ年とするが、4年次以降も運営費の交付を受けずに5カ年を限度として活動期間を延長することができる。

8. 研究グループは、活動記録などを会報「ニュースレター」および本学会ホームページ等に掲載することとし、研究集会は会員に公開することを原則とする。

9. 研究グループの代表者は、活動報告および運営費の決算ならびに次年度における活動継続の有無などを、各年度末までに本学会事務局をととして、役員会に文書により提出しなければならない。

10. 本学会は、研究グループの運営には関与せず、当該研究グループの代表者に一任する。

11. 研究グループは、この内規により対応できない事柄について、役員会と別途協議することができる。

2014 年度日本旧石器学会役員会

(任期 2014 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)

会長：佐藤宏之

副会長：藤野次史

総務委員会：*伊藤健 野口淳 山岡拓也

会計委員会：*岩谷史記 鈴木美保 越知睦和 (委嘱)

会誌委員会：*絹川一徳 門脇誠二 鎌田洋昭 沢田敦
藤田尚 西井幸雄 (委嘱)

ニュースレター委員会：*高倉純 氏家敏之 笹原芳郎
野口淳 藤野次史

渉外委員会：*出穂雅実 絹川一徳 鈴木美保 野口淳

研究企画委員会：*芝康次郎 鈴木美保 高倉純
藤田尚 森先一貴

データベース委員会：*鹿又喜隆 軽部達也

入会審査委員会：*笹原芳郎 藤野次史

広報委員会：*丹羽野裕 及川穰 堤隆 (委嘱)

日本旧石器学会賞選考委員会：*島田和高 佐藤宏之
藤野次史 伊藤健 芝康次郎

(*は委員長)

会計監査委員：木崎康弘 宮田栄二

顧問：赤羽貞幸

アジア旧石器協会 会長 小野昭 執行委員 (事務局)

阿子島香 加藤真二 (2014 年 11 月まで) 佐藤宏之
出穂雅実 野口淳 (2014 年 11 月から)

お知らせ

平成26年度普及講演会のお知らせ

第1回 「隠岐の黒曜石と大阪二上山のサヌカイト」

日時：10月12日(日) 13:30～16:00

場所：大阪歴史博物館講堂

講演：絹川一徳氏、丹羽野裕氏

第2回 「第1回度学会賞受賞記念講演会」

日時：10月25日(土) 14:00～16:00

場所：東京都埋蔵文化財センター

講演：堤隆氏 ほか

詳細は日本旧石器学会ホームページ等でお知らせします。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されているため、会費は原則前納とさせていただいております。会費未納の方々につきましては、速やかに所定の会費の納入手続きをなされますようお願いいたします。年会費は5,000円で、振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号 00180-8-408055 です。全国の郵便局にて簡単に手続きいただけます。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。事務局までメール等でご連絡ください。

メーリングリストの運用について

すでに御案内のとおり、メーリングリストの運用を開始しました。これは、学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものです。まだ登録していない会員諸氏におかれてはメーリングリストの御登録ください。メールアドレスを、総務委員の山岡のメールアドレス (takuyayamaoka@yahoo.co.jp) までお知らせください。速やかに御利用できるようにします。強制するものではありませんが、御協力をお願い申し上げます。

日本旧石器学会ニュースレター 第27号

2014 年 8 月 20 日発行

編集：日本旧石器学会ニュースレター委員会
高倉純・氏家敏之・笹原芳郎・野口淳・藤野次史

発行：日本旧石器学会

事務局：〒422-8529 静岡県駿河区大谷 836
静岡大学人文社会科学部社会学科山岡拓也研究室

E-mail jpra_2003@ay.em-net.ne.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>